現場レポート　ニューヨーク事務所

JETAA ジャマイカ支部主催 日本・ジャマイカ国交 60 周年記念会議

（一財）自治体国際化協会ニューヨーク事務所　所長補佐　高橋　真理（茨城県境町派遣）

2024 年 10 月 11 日に JETAA（元 JET 参加者の会）ジャマイカ支部主催の「日本・ジャマイカ国交 60 周年記念会議」が開催されました。

ジャマイカと日本

ジャマイカは、カリブ海に位置する人口約 300 万人の島国で、首都はキングストンです。1962 年、カリブ海の英国領植民地の中で最初に独立を果たしました。日本は、その後すぐにジャマイカを独立国家として承認し、1964 年 3 月に国交を樹立しました。2024 年は国交 60 周年の年にあたり、両国で友好関係に焦点を当てたさまざまなイベントが行われました。

ジャマイカは温暖な気候と美しいビーチで知られ、オールインクルーシブの高級リゾートやウォータースポーツなどの観光が主要産業の一つです。ほかにも、高級コーヒーである「ブルーマウンテン」の産出やレゲエ発祥の地としても有名で、ボブ・マーリーは今でも多くのファンに愛されており、ボブ・マーリーミュージアムは連日ファンが訪れる人気の観光地となっています。また、近年は陸上競技が特に盛んで、ウサイン・ボルトなど優れたアスリートを多く輩出しており、ジャマイカ人選手のオリンピックでの活躍は記憶に新しいと思います。

ボブ・マーリーミュージアム

JETAA ジャマイカ支部

ジャマイカの公用語は英語で、2000 年から JET プログラム（語学指導等を行う外国青年招致事業）への参加が開始されました。当初は 8 人の JET 参加者から始まりましたが、徐々に人数が増加し、現在は年間で約 50 人が日本各地で活躍しています。JET 経験者も 2024 年現在で計 450 人以上となりました。

JETAA ジャマイカ支部は、2002 年に設立されました。設立以来、JET プログラムの PR や日本文化を紹介するイベントなど、地域に根ざした活動を行っています。例えば、アニメイベント「アニメコム（AnimeCOM）」でのブース出展や、大学ジャパンクラブとの連携によるイベント開催などが挙げられます。特に「アニメコム」はジャマイカ最大のアニメイベントとなっており、アニメを通して日本に興味を持った若者が多く参加するため、JET プログラムを PR する良いきっかけとなっています。

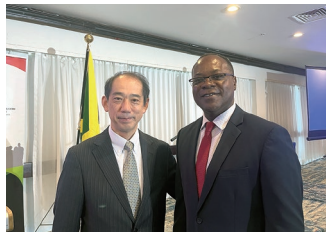
2021 年以降、ニューヨーク事務所が支部活動のサポートを行っています。

ジャマイカ支部のロゴ

記念会議

会議には、JETAA メンバーをはじめ、渥美恭弘駐ジャマイカ大使やアランド・テレロング ジャマイカ外務貿易省国務大臣も出席するなど、約 100 人が参加しました。また、JET プログラムへの参加希望者の拡大のために、現地の大学生や高校生が会議に招待されました。クレアからは、本部から参与が、当事務所からは 3 人が出席しました。渥美駐ジャマイカ大使のあいさつのなかでは、SEA（スポーツ国際交流員）の活用を含む JET プログラムが、両国関係において重要な意義を果たしていることが強調されました。テレロング国務大臣は日本語を交えたスピーチを披露し、両国への期待を込めたメッセージに、会場からは盛大な拍手が送られました。

その後、基調講演が行われ、支部の共同創設者であるショーン・アーロン氏が登壇し、JET プログラムが人生においていかに貴重な体験であったか、また自身のキャリアについて、そして支部を創設した経緯などを発表しました。ショーン氏へは、今までの功績に対して、当事務所から感謝状も贈られました。続いて、JET 経験者による音楽パフォーマンスや日本の伝統文化を紹介するための生け花のデモンストレーションが行われました。


クレア参与（左）、
ショーン・アーロン氏（右）

午後のプログラムで行われたパネルディスカッションでは、さまざまな年代の JET 経験者が登壇し、JET プログラムが彼らの人生にどのように影響を与えたかや、帰国後のキャリアについて共有されました。すべてのパネリストが「JET プログラムは人生において貴重な経験となった」と話していたほか、「帰国後は JETAA に参加することで世代を超えた交流ができることも魅力の一つだ」と話していたことが印象的でした。あるパネリストは、「JET プログラムを通じて培った異文化理解が、現在の職場での国際的なプロジェクトにおいて大いに役立っている」と語ってくれました。また、他のパネリストからは、「海岸を掃除する『ビーチクリーンアップ』というイベントに参加したり、子どもたちに日本文化を広めるボランティアを行うことで、支部活動を通じて地域社会にも貢献できる」といったコメントがあり、JET プログラムの魅力を十分に語ってくれました。

さらに、ディスカッションの後半では、JET プログラムへの参加希望者からの質問を受け付けるセッションが設けられました。「日本での生活に対する不安」や「文化的な違いへの対応方法」についての質問が多く寄せられ、各パネリストが的確なアドバイスを行いました。「不安を感じるのは当然だが、挑戦することで得られる成長の喜びは何にも代えがたい」といった力強いアドバイスもありました。

参加者による記念撮影の様子

最後に

JETAA は、特に新型コロナウイルス感染症の流行以降、多くの支部が活動の縮小や参加メンバーの減少、中心メンバーの世代交代などさまざまな課題に直面しています。ジャマイカ支部は、メンバーが 100 人程度で大きな支部ではありませんが、新型コロナウイルス感染症の流行以降もさまざまなイベントを精力的に行っており、JETAA 支部の中でも非常に活発に活動をしている支部の一つです。支部の役員は若手のメンバーが担っていますが、イベントを行う際は支部創設時のメンバーたちも積極的に活動に参加しており、中心となるメンバーの世代交代がうまく行われている印象を受けました。

さらに、世代を超えたメンバー間の交流も頻繁に行われているため、帰国後のキャリアについても意見交換する環境が整っており、この点も支部活動の活発化や若手メンバーの活躍を後押ししているように感じました。

支部からは、「今回の会議は準備期間が短かったものの、多くのメンバーの活躍で成功を収めることができた。このような大きなイベントをぜひまた企画して、さらに支部を活発化させていきたい」との話がありました。当事務所に対しても、「クレア職員が直接ジャマイカへ訪問してくれることで、クレアとのつながりを感じることができ、支部メンバーのモチベーションにもつながった。支部助成金の支援だけではなく、また訪問してほしい」との話を受けました。

以上のように、支部活動は日本文化を広めるだけでなく、さまざまな活動に挑戦できる場となっており、JET 経験者は帰国後に母国で日本を紹介してくれる貴重な人材でもあります。当事務所としても引き続き、所管地域であるアメリカ、カナダ、カリブ海の JETAA の活動をサポートし、海外への日本文化の発信に尽力してまいります。

開催地で JETAA メンバーとの記念撮影